

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、図書館本館・帷子分館・桜ヶ丘分館・移動図書館ひまわり号は、**5月6日（水）まで 閉館中**です。（状況により延長、または開館後も利用制限を行います。）

* 現在貸出中の本で4月中に返却期限を迎える本は、期限を5月28日まで延長しています。

* インターネット予約の受付を停止しています。 * 返却ポストは、閉館中も利用できます。

現在、図書館では貸出ができませんが、スマホやパソコンなどで読める本の紹介を載せた、臨時の図書館だよりを発信します。

職員による本の紹介特集

自宅で読める 不朽の名作をご紹介します

「青空文庫」（あおぞらぶんこ）で読めます。

青空文庫は、著作権が消滅した作品や著者が許諾した作品を公開しているインターネットの電子図書館です。たくさんの方の無償の働きで、無料で読むことができます。「青空文庫」(<https://www.aozora.gr.jp/>)をご覧ください。スマートフォンのアプリや既存の電子書籍サービスなどでも利用できます。

所要時間は、読むのにかかるおよその時間です。作品選びの参考にしてください。

「日本ライン」 北原白秋／著

所要時間 20分

昭和2年に新聞に掲載されるとされる紀行文です。可児から犬山までの木曾川の景観を日本ラインと称しますが、白秋はこの近辺を訪れた時のエピソードを面白おかしくまとめています。兼山、広見、今渡などの地名や「土田の^{はね}橋」が登場し、当時の土田にあったライン遊園地からの川下りなど、著名作家による記録です。

後年、作家たちの作品集『現代日本紀行文学全集 中部日本編』（ほるぷ出版）にも収められました。

（館長 花村誠司）

「老人と海」 アーネスト・ヘミングウェイ／著

石波杏／訳

所要時間 60分

メキシコ湾流に小さな船を漕ぎ出し独りで漁をしていた老漁師は、一匹も釣れない不漁が八十四日も続き、漁師仲間から運に見放されていると言われていた。だが、日頃から亀の卵やサメの肝油を食べて体力を保っていたし、長年の漁師経験から彼には自信があった。そして八十五回目の漁で昼夜休まず巨大な魚と格闘し、意識もうろうと帰港する。大海原で孤独と闘いながら自分を励まし続け、決してあきらめない老人の姿に勇気づけられる。

（帷子分館 倉知）

「藪の中」 芥川龍之介／著

所要時間 30分

この話は、殺人と強姦をめぐる4人の目撃者の証言と3人の当事者（1人は死人）の告白からなる作品です。真実は1つでも、自分の名誉を守るためなのか、無意識的に事実が都合よく捻じ曲げられ、陳述に食い違いが生まれている様が興味深いです。何度か読み返し、時系列で矛盾点を探っていくのもお勧めです。

結局、この物語の真相は学術的にも未だ解明されておらず、「真相は藪の中」という言葉の語源にもなっています。

（帷子分館 磯道）

「押絵と旅する男」 江戸川乱歩／著

所要時間 10分

主人公は旅先の汽車の中で押絵を持った男と出会う。男はあなたなら分かってもらえそうだと、身の上話を始める。男の兄は浅草十二階からいつも双眼鏡で覗いていた。理由を尋ねると双眼鏡の中の女性に恋をしたという。そしてその女性なんと押絵の中の女性だった。落胆した兄だが毎日のように双眼鏡をのぞいているうちについては、自分も押絵の中に入り込んでしまう。

江戸川乱歩、初期の短編小説。大正ロマンの怪奇な世界を味わえます。

（帷子分館 濱口）

「めくらぶどうと虹」 宮沢賢治／著

所要時間 15分

親子で読んでいただきたい美しい童話です。城あとのやぶに実っているきれいな「めくらぶどう」は、空にかかる虹に切実なあこがれを抱いています。「どうか私のうやまいをうけとってください」とふるえながら思いを伝えるめくらぶどうに、虹は「あなたこそ消えることのない虹です。」と優しく諭すのでした。虹がめくらぶどうに語りかけることばには、賢治の宗教観が反映されているようにも思えます。読後のせつない思いを誰かと共有したくなる1冊です。(本館 熊崎)

「山羊の歌」 中原中也／著

所要時間 50分

「汚れっちまった悲しみに」「サーカス」が収められている詩集としても有名です。詩に刻まれた独特のリズムとオノマトペに彼の個性が感じられますが、陽に対する陰、どことなく物憂げな空気をまとっているのも、フランス文学者の一面を持つ中也らしさかもしれません。自分を格好良く見せたい一方で、自分の醜悪な一面を嫌悪する心、恋愛での利己的な感情など、若者が思い悩む心のようすをうたっている詩が多く、中学生や高校生の皆さんにもご紹介したい本です。(本館 福井)

「十二月八日」 太宰治／著

所要時間 10分

昭和16年12月8日の出来事のある1人の平凡な主婦の日記として綴った作品です。この日は、第二次世界大戦が始まった日ですが、世の中はまだまだのんびりしていて、ラジオから流れてくる「比島、グアム島空襲！」などというニュースが、主婦たちの井戸端会議の話題になったりしています。主人公は銭湯に行って子供をお湯に入れるのが一番楽しい時だと幸せを感じているが、この後、日本がたどることになる悲惨な歴史は、この時には考えられなかったことでしょう。(本館 饒村)

「桃太郎」 芥川龍之介／著

所要時間 15分

「桃太郎」は、日本でもっとも知られている昔話です。この芥川龍之介の「桃太郎」は皆さんが知っている内容とは少し違って、非常に斬新で、ビックリするお話だと思います。一般的なあらすじは、桃太郎が鬼を退治する物語です。しかし芥川版の桃太郎は、客観的な視点で桃太郎の物語を捉えなおして、確かにそうかも…と考えさせられる面白い作品です。文字数5800程度の短編小説なので、長編小説が苦手な方でも気軽に読めるお話だと思います。(本館 樫山)

「玩具」 太宰治／著

所要時間 15分

どうにかなろうとしても、どうにもならない場合、糸の切れた凧のように生家に戻ってしまう著者が書いた作品は、ある方法によって自分の三歳二歳一歳の記憶を蘇らせ、綴ったものだった。

生まれて初めて地べたに立った時の感触。玩具(だるま)と言葉を交わしていたこと。そして、生後8ヶ月の時に亡くなった祖母の最期の様子。フィクションをフィクションとして扱うメタフィクション小説。第一創作集『晩年』に収録された「未完」で閉じる不思議な読後感の短編。

(桜ヶ丘分館 春日井)

可児市メール配信サービス「すぐメールかに」 「図書館だより」配信中

可児市からの緊急メールなどを、お手持ちの携帯電話やパソコンにメール配信するサービスです。メニューの中に「図書館だより」があります。「sugumail.com」からの受信を許可する設定にしておいてください。

【登録方法】下記のメールアドレスに空メール(件名・本文に何も書かずに送るメール)を送信すると、仮登録メールが返信されます。その内容に表示されたURLにアクセスし登録ページにお進みください。

kani@sg-m.jp



※二次元バーコードの読み取りができる携帯電話をお持ちの方は、右のコードをご利用ください。

可児市立図書館ホームページ

<http://www.kani-lib.jp/>

スマート
フォン用
サイト



「図書館だより」2020年臨時増刊号 No.1

発行：可児市立図書館 住所：〒509-0214 可児市広見 570-5

電話：(0574) 62-5120 FAX：(0574) 62-5303

※開館などについての最新情報は、図書館ホームページや、「すぐメールかに 図書館だより」などでお知らせします。